

令和2年度 研修講座ライブラリー



参加できなかった講座、
ぜひご覧ください！

長野県生涯学習推進センター

貸出番号	(講座名)・「演題」・講師名 <収録時間>	おすすめのポイント
R2-1	(共生社会の実現) <110分> パネルディスカッション「コロナ禍での障がい」「コロナ禍で障がいを共有できるか」 東京都立大学人文社会学部社会福祉分野 教授 杉野 昭博 東京都立大学理学部数理科学科2年 金坂 律 CIL上田Groping 代表 井出 今日我 塩尻手話講座運営委員会 委員長 森下 尚子	誰もが安心して暮らせる「共生社会」の実現が、今社会の大きな目標となっています。この講座では、新型コロナ禍における障害当事者の目線に立って、障がい者の自立と社会参加のあり方、障がい者にとっての学校や地域、職場等におけるノーマライゼーションについて学びます。 センターとして初開催となったオンラインによる講座で、講師やパネリストはリモートでご参加いただき、一部の受講者もオンラインで受講しています。手話通訳・要約筆記も取り入れた、新たな取組でもある講座です。
R2-2	(子育て支援に関する講座C) 新講師 <51分> 講義「子どもの命を愛しむ(おしむ)・育む、放課後子ども教室・児童クラブ」 千葉県 元学童保育指導員 元養護教諭 石田 かつ子	養護教諭・学童指導員として経験豊富な講師の先生から、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるような放課後の居場所作りについて学びます。学校とは違う、児童クラブでの子ども達の姿をどうとらえ、理解すれば良いのか、また、保護者との関係をどう築いていけば良いのかを、具体的な事例を通して考えます。
R2-3	(持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方) <128分> 講義「ESD/SDGsが育むつながりと持続可能な社会」 信州大学学術研究院人文社会科学域教育学系 准教授 安達 仁美	地球環境の異変をはじめ、世界には様々な課題が山積しています。これらはひとりひとりが理解して、行動につなげていく必要があります。
R2-4	<75分> 事例発表「学校・家庭・地域をつなぐ わくわく村」 高山村立高山小学校 事例発表「学友林の整備を通じた世代間・地域交流」 塩尻市宗賀公民館	ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方や、具体的な方策であるSDGs(持続可能な開発目標)の内容を学び、これからの学校教育や社会教育の場面で、「持続可能な社会」実現のためにできることはなにかを考えます。
R2-5	(運動遊びで体とこころを育てる) 新講師 <108分> 実技「“やる気・元気・根気”のコミュニケーション」 長野県レクリエーション協会 犬飼 己紀子	生活習慣の変化に伴い、子どもたちの運動頻度の減少が問題になっています。講義では「コミュニケーションにおける発信者と受信者間のズレ」についてや、「自己肯定・他者肯定の大切さ」を学びます。実技や演習では、どのようにコミュニケーション能力が育まれるかなど教育現場から職場まで、すぐに活用できる運動遊びやアイスブレイクを多数学ぶことができます。
R2-6	<123分> 講義・演習「“見取り・聞き取り・やりとり”のコミュニケーション」 日本グループワークトレーニング協会 犬飼 己紀子	
R2-7	(公民館の現代的役割を考える) 新講師 <112分> 講義「公民館の現代的役割を考える ～“温故創新”草創期と今、そして未来をつなぐ～」 日本体育大学スポーツマネジメント学部 教授 上田 幸夫 事例発表「地域と子どもたちをつなぐエゴマ栽培」 塩尻市広丘公民館 事例発表「子どもが自慢できる地域にしよう」 飯田市下久堅公民館	少子高齢人口減少により、多くの地域が存続の危機を迎えています。一方地球温暖化が原因と思われる豪雨災害などが多発し、各地で復旧・復興の取組が進められています。そして本年はコロナ禍により社会的孤立など様々な課題が顕在化しています。講義・事例発表・パネルディスカッションを通して、新たな課題が取り巻く現代の地域社会における、これからの公民館の役割とは何かを学びます。
R2-8	(防災！一瞬の判断と備え) <113分> 講義「一瞬の判断と備え～あなたは突発的な自然災害に対処できますか～」 兵庫県広域防災センター防災教育担当 田中 健一	近年、経験したことのない自然災害が全国各地で発生しています。阪神・淡路大震災の体験をもとに、東京大学と連携し最前線の防災研究をされている講師を招き、日頃から備えておくべきことや、地域での人と人との繋がりの大切さを考えるとともに、演習を通じて学校を避難所に想定した災害時の対応について学ぶことができます。
R2-9	(子どもの貧困問題と対策) <66分> 事例報告Ⅰ「ハッピーハウスの取り組みから」 ハッピーハウス 勝又 真理 谷口 彰登 事例報告Ⅱ「子どもサポートセンター Free Wingの取り組みから」 子どもサポートセンター Free Wing 加藤 和之 NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長 湯浅 誠	ひとり親家庭の増加や地域とのつながりの希薄化を背景に、7人に1人の子どもたちが相対的貧困の状態に置かれていると言われます。県内でも子ども食堂などの支援活動が広がっています。全国の事例に学び、さらに貧困問題に取り組む団体の事例報告をお聞きして、子ども食堂の果たす役割や、いま私たちができる事を考えます。
R2-10	(災害復興と公民館) 新講師 <74分> 講義「地域のレジリエンスと公民館」 東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平	近年の大規模自然災害は県内にも被害が及んでいます。対話を通じた他者とのつながりから相手や自分、社会について考え、行動につなげる社会教育の役割が、復興においても大事な基盤となることを学びます。事例報告では、東海林さんのご自身の地域づくりの取組と取組のきっかけとなった分館役員の経験について、樋口さんからは、12長野県北部地震をきっかけに、集落住民の話合い・学びあいのプロセスを大事にした復興の取組について学びます。
R2-11	<66分> 事例報告「私にとっての分館活動」 旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト 副代表 東海林 文子 事例報告「震災がきっかけとなった、300年後の存続を目指す栄村小滝集落の取組について」 合同会社小滝プラス 代表社員 樋口 正幸	

☆貸し出しは無料です。返却時の送料のみ、利用者負担です。 ホームページ「研修講座DVD 貸出しページ」はこちら→

